

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日常生活評価学演習		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	水曜日 10:30~12:30		
授業の目的・概要	対象者がどのように日常生活と関われば QOL を高めることになるのか考えることは重要である。本科目の目的は、①日常生活活動を評価する観点を身につけること、②対象者の日常生活活動上の問題点を焦点化すること、③日常生活活動の評価結果を対象者の状態・状況に即して解釈することである。この3点それぞれについて講義した後、グループワーク等によって学生が主体となる検討を行ってもらう。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期の解決に努め、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。				
教科書	①標準作業療法学専門分野 日常生活活動・社会生活行為学/編:濱口豊太/医学書院 ②脳卒中の機能評価-SIAS と FIM[基礎編]/編著:千野直一 他/金原出版 【2冊指定】				
参考書	特に指定しない				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	日常生活活動を評価する各種の評価手段について意義・目的を説明することができる。			OT (1)、(2)	
②	対象者の症状や障害に応じた日常生活活動評価の観点を示すことができる。			OT (2)	
③	日常生活活動に係る、対象者にとって問題点を焦点化して示すことができる。			OT (1)、(2)	
④	日常生活活動評価結果の解釈について、対象者に即して説明することができる。			OT (1)、(2)、(3)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	[ADL 評価スケール①] FIM について学習する。	講義、演習	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。教科書の該当箇所を精読したうえで、演習で行ったことを中心に配布資料のポイントを確認する。	4	
2	[ADL 評価スケール②] BI について学習する。	講義、演習		4	
3	[ADL 評価スケール③] FAI、老研式活動能力指標、障害高齢者の日常生活自立度、CHART-J などについて学習する。	講義、演習		4	
4	ADL の質的評価について学習する。	講義、演習		4	
5	小テスト、小テストの解説。 [福祉用具の活用①] ベッド・床上動作、移乗・移動関連用具の活用について学習する。	講義、	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。教科書の該当箇所を精読したうえで、配布資料のポイントを確認する。	4	
6	[福祉用具の活用②] 食事、整容関連用具の活用について学習する。福祉用具の活用についてのグループ発表①	講義、発表		4	
7	[福祉用具の活用③] 更衣、排泄関連用具の活用について学習する。福祉用具の活用についてのグループ発表②	講義、発表		4	
8	[福祉用具の活用④] 入浴、コミュニケーション関連用具の活用について学習する。福祉用具の活用についてのグループ発表③	講義、発表		4	
9	小テスト、小テストの解説。 [場面、疾患別の評価①] 起居動作の評価について学習する。	小テスト、講義、GW	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。教科書の該当箇所を精読したうえで、GW で検討したことを中心に配布資料のポイントを確認する。	4	
10	[場面、疾患別の評価②] 移乗の評価について学習する。	講義、GW		4	
11	[場面、疾患別の評価③] 食事動作の評価について学習する。	講義、GW		4	
12	[場面、疾患別の評価④] トイレ動作の評価について学習する。場面、疾患別の評価についてのグループ発表①	講義、発表、GW		4	
13	[場面、疾患別の評価⑤] 入浴の評価について学習する。場面、疾患別の評価についてのグループ発表②	講義、発表、GW		4	
14	[場面、疾患別の評価⑥] IADL (炊事) の評価について学習する。場面、疾患別の評価についてのグループ発表③	講義、発表、GW		4	
15	転倒予防、手すりの設置、段差解消などに係る住環境整備について学習する。	講義、GW		4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		80	0	20	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	50	0	5	0	0	55
	思考・推論・創造する力	20	0	5	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	5	0	0	15
評価の方法		評価のポイント					フィードバックの方法
行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	期末に試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書、提示資料、口頭説明の内容に基づいた問題が出題され、得た知識についてどの程度理解できているかが主に問われる。[配点]期末試験:50点、小テスト:20点			全体に向けた講評を授業時または Teams 上で行い、必要に応じて対面またはリモート等で個別に振り返りを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	1人あたり2回のグループ発表を行う。1回目は福祉用具の活用、2回目は事例の日常生活活動における問題の焦点化がそれぞれテーマとなる。自身の回答には明確な根拠を示す必要がある。また、グループ発表となるが、他人任せにすることなく個々が能動的に行動することが求められる。			授業内で、発表ごとに意見交換とフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
授業態度に問題がある場合は退室してもらいます。 教員の実務経験 ：本科目の担当教員は10年以上の臨床業務経験がある。 実践的授業の内容 ：臨床で得た知見も取り入れて、日常生活活動に関わる基本的事項について教授する。 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。							